

2004年5月23日(日) Internationales Puppen Festival - 1



昔から人形と、玩具の産業地として知られている Neustadt、Sonnenberg で、1週間催されたPuppen Festivalへ参加してきた。人形美術館での特別テーマによる創作人形展や、アンティークドールの展示会や、人形作りのための道具や小物など、古い新しいを問わず、人形に関するありとあらゆる物の展示即売会が町のあちこちの会場で行われた。

その中の催しの一つに、Max-Oscar-Arnold-Award (アートドールコンテスト)がある。この賞はノイシュタットの人形産業を興した町の名士である、Max Oscar Arnoldの精神を受け継いだ、現在のドールアーティストへ贈られる。子供の人形、大人の人形、ファンタジードール、エクスペリメントドール、など、12のカテゴリーに分かれ、それぞれにひとりずつ、(該当者無しのこともあるが、)与えられる。

その中で作家の長年にわたるライフワークに対して与えられる賞に、今年はパリ在住の大島和代さんが選ばれた。会場の中央には彼女の作品や写真が展示され、繊細な素晴らしい作品にたくさんの人の感嘆の声が聞こえた。エクスペリメントドールの賞はクロアチアのニベスチチンシャイン、そして、とても嬉しいことに、大人の人形のカテゴリーに参加した私も賞をいただいた。他に受賞者には韓国人、ロシア人も入れて、インターナショナルな顔ぶれになった。*写真は翌日の新聞に載ったものです。中央手前が大島和代さん、後列左から3人めがニベスさん、中段右のオレンジのベストが私です。

5月24日(月) International Puppen Festival - 2 MOA 会場風景



大島さんの作品の展示風景。右は制作途中の2つの頭(右のはフリーダカルロス)左はくるみの殻に入った小さな赤ちゃん、。すやすや眠っていたり、あくびをしていたり、皆それぞれに个性的で、生きているみたいなベビーベビー、。繊細で美しい作品に溜息がでました。

パリ在住の人形作家、大島和代さんにはじめてお会いして、最初は緊張していた私も、暖かくて、気さくなお人柄でほっ、。関西弁まじりで話はずんで、楽しく充実した毎日を過ごしました。毎日、一緒によく歩き、よく食べ、飲みました、ね、。クロアチアの作家ニベスさんと一緒に、。

5月24日(月) International Puppen Festival - 3



MOA 会場入り口のマスコット人形の前で、ニベスと私。ペンションの部屋がお隣だったのと、去年は東京で個展をしたということもあって、話がはずみました。ちょっと不思議で、フワっとしていて、でもしっかりポリシーを持っている、優しさあふれる感じの人でした。

私は毎日バイエルン地方のおいしい地ビールを飲んでハッピーな毎日、、、

5月26日(水) ノイシュタット ドイツ玩具工業博物館—特別展示会—上と下



古い時代の人形ばかりでなく、新しい作り手による人形も、ということで、毎年このプッペンフェスティバルのオープニングに併せて、特別テーマによる展示会が開かれる。14回めの今年のテーマは ”上と下”、。それぞれの作り手がどんな風にそれをイメージして形にするかはとても興味深い。

たまたま去年作った2体がそのままテーマに合うので、出してみたら？ というお誘いを受けたので、私も参加している。大きな立派なショーケースに入れていただいて、なんだかうれしいやら、気恥ずかしいやら、、、。他の方々の作品では、悪魔と天使、徳と悪徳—淑女と悪女 など、相反するものとしてとらえた作品や、文字通り上と下にいるものや、クルクル回せる輪に付けられた人形達が、上になったり下になったりするのも面白かった。この展示会は8月下旬まで、続く。

5月27日(木) ゾンネンベルグ、ドイツ玩具博物館



ここはノイシュタットから車で5分ほどいった隣町ゾンネンベルグの博物館。ドイツで、一番古い玩具博物館だそう、。ここは、やはりノイシュタット同様、古くからの人形産業の町だ。

こじんまりした町の山側のベートーベン通の古い建物で、ノイシュタット同様たくさんのアンティークドールやぬいぐるみ、ブリキのおもちゃなどが時代別に集められている。

右はサンプルボードで、かわいいキューピーちゃんの前形、発見！。

ここもプッペンフェスティバルの間の特別催しとして、町のあちこちで、人形劇が見られる。

No.573

5月27日(木) 東西の境界



このノイシュタットはバイエルン州、ほんのちょっと行った隣町のゾンネンベルグはチュービンゲン州で、1990年に東西ドイツが統合されるまでは、この真ん中に45年間もの間、境界線の鉄条門が張り巡らされていた。

ノイシュタットのMOA会場と同じ建物の中にその当時の様子を伝える模型や写真などが展示されている資料館があったので、館長さんから少しお話を聞いた。ちょうど境の真ん中にゾンネンベルグの町の教会と墓地があり、そこには厳重な見張りが置かれ、葬儀の際はほんの近親者しか行けなかったらしい。。年年増える西への脱出者を防ぐため、大人の背より遥かに高い鉄条網は二重、3重になり、そして、その間には地雷がたくさん埋め込まれていたそうだ。14年前の東西併合の後、この地雷は一掃された、ということだが、彼自身はそれを完全には信じていないし、人々の心がほんとに癒えるのにはまだまだ時間がかかるだろう、とおしやつた。

その灰色だった境界地帯は今や緑の草地になり、はっきりとはその跡も残っていない。

左の写真は、行く手がゾンネンベルグ、ちょうどこのあたりに検閲門があったそうだ。ちょうど夕暮れ5時前で、けっこうな車の渋滞だった。そのまま右手に行くと後側、ちょうどこの農家の裏手の森が境界線だった。その当時のこの家の人達はどんな思いで暮らしていたのだろう、とふと思った。

No.574

5月28日(金) フリーマーケット-1



20日の木曜日、この日はキリストの聖日で休日にあたり、金曜日にも休みをとって、4日間の連休をとる人も多い。フェスティバルの催しの一つとしてこの日はノイシュタットの町の広場で大きなフリーマーケットが開かれた。

私 がこの町へ来た最初の数日はとても静かで、フェスティバルにほんとに人が集まるのかしら？とちょっと心配になったくらい、。明日はマーケットがあるから、朝6時起きで覗いてみよう、という約束をしたのだけれど、疲れていたのと、せいぜい10軒ほどお店がでていれば良い方かなー、と思ったのもあって（失礼！）、7時すぎに寝ぼけまなこで出かけてみたら、え！ウソ！と思わず口走ってしまった。昨日まで、閑散としていた教会前の広場に出店がぎっしり！教会の裏手から広場へ通じる道のあちこちにまで店が並び、すでに掘り出しもの狙いの客でけっこう賑わっていた。

5月28日(金) フリーマーケット-2



さすがに人形の町、どの店も古いものから新しいものまで、かなりの数の人形、人形、値段もピンキリ、いいなあ、と思ったのはやはり高い。それでも小さめのを幾つか買った。私の今回のドイツ旅行の思い出にぴったり、人形の柄付きの小さいピアジョッキも一緒に、。

5月28日(金) フリーマーケットー3



ずらっと、果物のように箱に並べられていた頭、、、。右は私のお買い物、けっこう出費してしまった、、、。京都の骨董市のように、なかなかまけてくれなかった、、、。ポルセレンの人形達はちょっと土で汚れている。どうしてか、というと、工場での品質検査に通らなかったものは、まとめて埋められて処理されたのだが、それを、また掘り返して、こうして売っているのだそう、、、。けっこうな力仕事なのよ、とおばさんが言っていた。ということは、まだ未使用なわけだ、、、。やっぱり子ども達に遊ばれて古くなった人形達とはどこことなく違って冷たい感じがするような、、、。汚れは水ふきすると少しおちて、ましになった。

2005 5月1日(日) ドイツ ノイシュタット玩具産業美術館展



木曜日の朝9時50分、ビール発の汽車に乗ってバーゼル、ニュールンベルグ経由で4回乗り換え、ノイシュタットの小さな無人駅に着いたのは夕方7時。連絡しておいたので、ペンション キムの御主人が迎えに来てくれていた。奥さんは韓国人で去年まで韓国料理の レストランもやっていたのだが、どうも不景気のため店は閉めた、との事、、、。彼女の料理を楽しみにしていたので、とっても残念！

ペンションの方は 去年と同じように、クロアチアのアーティスト、ニベスと隣同志の部屋を用意しておいてくれた。ニベスの方は28時間もかけて、クロアチアから長距離バスの 旅、その日の朝、着いたのだそう。1年ぶりに会った彼女は相変わらずフレンドリーで温かい感じ、、、。去年はパリの島さんと一緒に、一緒に楽しい時間を過ごしたっけ、、、。もう1年も経ってしまったんだなあ、、、。

翌朝、すぐ近くにあるミュージアムの方へ作品を納めに行った。館長のライドナーさんがにこにこ顔で出迎えてくれた。私に用意されたのは幅約2x高さ1.5mくらいの大きなガラスケース、、、。去年と同じくらいのサイズを予想していたので、ちょっと 慌てた。というのはその床を真っ白のシルクで覆うつもりが、手持ちの布では足りない。町の生地屋さんにも走っていったが、見つからなかった。あれこれ試して、結局真ん中にシンプルに配置することで落ち着いた。あとで

ゆっくり見てみると、やっぱりこのスペースで正解、グレイのバックの中にマヤも菩薩様も浮かび 上がるような感じになった。

No.708

5月1日(日) ノイシュタット — 2



今年のテーマは夏の夜の夢、20人の参加者のうちシェークスピアは5作品で、他にはドンキホーテ、妖精ティンカベル、指輪物語など、。ハイネの詩や、俳句からのイメージをモチーフにしている人もいた。

私の隣のケースはニベスの”妖精の王様の恋”。彼女らしい繊細で優しい妖精達がスペースいっぱいに表示されていた。

右はロシア人作家ナタリア・レブサックの妖精パック、。カラフルで優しげな線がとってもいい。

2日(月) ノイシュタットー3



ここはペンションのすぐ近く森の入り口にあたりにある古い佇まいのレストラン、。格別においしいコーヒーが飲める。この森の中を歩いていくと旧東ドイツとの国境線。プッペンフェスティバルは水曜日からで、まだ町中はとても静かだった。

今回は2泊だけで、ちょっと慌ただしかったけれど、なんとか参加できただけでも大満足、。昨秋、別のギャラリーに出していた3体がこちらに送られて来ていた ので、それを持ち帰ることになり、スーツケースはぐんと重くなった。帰りの便は10時間余り、4度の乗り継ぎの荷物の持ち運びで、ぐったりと疲れはてて夜 11 時近く、我が家に帰り着いた。